

平成25年12月19日



平成25年12月22日

寒風が肌を刺す…棚田。「こんにちは」と、心がいっぱい詰まった挨拶をかわす。棚田回復へのベクトルは皆同じ仲間達である。

「やったね！」と言う満足感、心地よい疲労感を味わってきた…この一年。「ウォーツ」凄い！高山ゴボウの収穫に思わず歓声が沸いた。労多くして実りの少ない棚田ではあるが、仲間の「知恵を絞り・工夫を重ね・粘り強く取組む」中で、ノウハウが生まれた「波板栽培ゴボウ」であった。結果を恐れずにまずやってみることを痛感する、一年奮起のドラマの一つであった。棚田は高山の誇りの『顔』である。天馬がかける年を迎えたい。

やったネ！

期待以上の出来
…どうだ！



市販の塩ビ波板を約1m程にカット、斜めに埋め土を被せ、種を蒔く。肥料は鶏糞等。発芽までの水管理が大切。春、タムシバ(コブシ)の花が咲く頃を目安に種を蒔く。



約1mのゴボウが、手で掘れますよ。今年は大気不順の中、…味は五臓六腑を満足させる極上もの。



出来不出来はあるが、皆ベツピン揃い。来年は作付面積を倍増予定。大阪なにわ伝統野菜「高山ゴボウ」は農さと隊が守る。

棚田の回復へ向け…

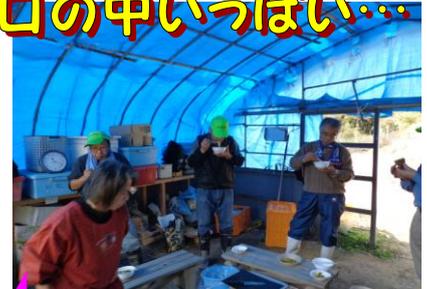


難行苦行の草刈りはつづく。闘志満々、棚田保全是草刈りから「習うより慣れ」ですね。



管理地36a、先人たちの苦勞のほどを思えば…耕運機が入り、仲間が入れば何でもない！！

口の中いっぱい…



至福のひと時。大地の恵み、豊穰の喜びを棚田のハウス内で舌鼓。こんな癒しも親睦も有り。

この一年の活動を振り返って…

暑く厳しい夏、熱中症を気遣いながらの草刈、時には味噌汁で懇親を深めながらの活動、保育園児の芋掘り体験で元気一杯沢山の笑顔のご褒美も貰えた活動、本年も振り返ると満足感も十分なものだったと思います。

趣味の域を超えた腕前を発揮しての活動基地の棚づくりと整備、経験豊かな隊員育苗の苗と最適な土のコーラボでの野菜づくり。いつの間にか野菜の植付け面積も増えました。

北海道で見つけた美味しさを再現したいとの隊員による山わさび栽培、収穫が楽で高品質となる高山牛蒡の波板栽培、これらは当隊独自の誇れるものとして継続したいものです。

活動作業における、景観維持の草刈と野菜づくりへの自然な人の流れも良きコミュニケーションの賜物です。収穫品に対する感謝の寄付金、いわゆる「感謝基金」も定着しました。これも必ずや活動の円滑化を呼び、遣り甲斐につながると思います。

本年も隊員皆さんの力に感謝すると共に、団結による成果の大きさを感ずる年でした(隊長:濱屋)。